



2023年4月1日発行
 (毎月1日発行)
 1984年8月15日第3種郵便物認可
 発行所 / (公財) 熊本YMCA
 〒860-8739
 熊本市中央区段山本町4-1
 Tel 096-353-6397(代)



熊本YMCA常議員会議長 みなみ運営委員
 熊本ジェーンズワイズメンズクラブ ウェルネス会員 森 博之 さん

ボランティアの入口

「そろそろ社会貢献に目を向けたい」。森博之さんがそう思い始めたのは約20年前、40代になった頃でした。森さんと同じ想いを抱き、YMCAを支える国際団体であるワイズメンズクラブで活動していた同級生に誘われて同クラブへ入会。ほどなくしてみなみセンターの運営委員にもなり、森さんのYMCA活動が始まりました。

森さんが運営委員として携わる活動の一つに、ミャンマーのエイズ孤児支援があります。ミャンマー最北部の地域では、過酷な労働を強いられている少数民族の人々が麻薬を安価に与えられ、中毒になって賃金を巻き上げられることが日常化。注射針を使いまわすことによりエイズが蔓延しています。熊本YMCAは現地のYMCAと協力し、孤児院の開設・運営を支援。2011年、森さんはYMCAの職員や他の運営委員とともにミャンマーを訪れました。「孤児院の周辺には施設に入ることすらできない子どもがいました。自身もエイズになっている子どももいます。実際に訪問したからこそ、分かることがありました」。現在もみなみセンターが中心となり支援活動は続いています。「一過性ではなく常に関心を持っておくことが大事です。ミャンマーや北朝鮮、ロシアなど、国交が難しい国もありますが、民間団体である私たちYMCAこそつながりをもっていることが重要ですね」。

YMCAで開かれたボランティアな生き方

「メタボまであと一歩」からフルマラソンに挑戦

ボランティアとしてYMCAに関わる一方、森さんはみなみセンターのウェルネス会員としてトレーニングを続けています。そのきっかけは熊本城マラソンでした。「ずっと、『マラソンなんてとんでもない。誰が走るか?』と思っていたのに、第1回熊本城マラソンの時に怖いもの見たさでエントリーしちゃったんです。『メタボまであと一歩』という身体だったので、シェイプアップしなくてはと思っていた時でした」。しかし、練習を始めるとすぐに膝や腰を痛めてしまいます。「整形外科に行ってみたら、体重を落とさないとマラソンはムリと言われました。そこで、みなみセンターのウェルネス会員になってトレーニングを始めてみたら、すぐに体重が1割落ちたんです。すごい効果でしたね。身体が軽くなって熊本城マラソンも完走できました。そこからハマっちゃった」。現在はマラソンのほか、トライアスロンにも挑戦しています。

2022年には「熊本YMCAインターナショナル・チャリティーラン」の実行委員長も務めました。チャリティーランは、障がいの有無にかかわらず全ての子どもたちが幸せに生きていける社会づくりを目的に、全国のYMCAで開催されています。「走ったり、車いすに乗ってみたり、皆が参加できるプログラム。YMCA関係者だけが参加するのではもったいないですね。もっと幅広い人たちに参加してもらえたら1ランクアップしたプログラムになると感じています」。

地域とのさらなる連携を目指して

身軽になった身体は災害支援にも活かされます。2020年の熊本豪雨災害では、YMCAのボランティアの一員として週末ごとに球磨村に赴き、被災家屋で汗を流しました。2016年の熊本地震の際、市の職員として被災地での業務に従事した森さん



右側が森さん

は、その時に受けた、全国からの応援や支援への恩返しをしたいと考えていたそうです。「熊本豪雨は、コロナ禍で県内の人しかボランティアに参加できない状況だったので、『私たちがやらなければ』という思いがありました。何か役に立ちたいという気持ちは誰もが持っているもの。でもきっかけがないんですよ。私は、YMCAにいたからボランティアに参加できたのだと思います」。

これからのYMCA運動について尋ねると、「地域のニーズに応じてきたのがYMCA。それは今からも変わらないことだと思います」と森さん。「その中でもキャンプは不変ですね。便利なグランピングもいけれど、昔ながらの自分たちでつくりあげるキャンプこそが生きる力につながるのではないのでしょうか。この経験は災害時にも必ず役立ちます」と語ります。「今のYMCAらしさを大切にしながら、さらに地域との連携を大切にしたい。『この地域にはYMCAがないといけない』と思ってもらえるように、皆さんのニーズに応えながらYMCA運動を広げていきたいですね」。

Pickup

YMCA学院日本語科
卒業式



熊本YMCA学院
卒業式

熊本五福幼稚園
卒園式



Information 行こう 見よう 深めよう

5月17日 Wednesday

フィランソロピーセミナー アフターコロナのコミュニケーション



社会貢献
×
セミナー

企業人の社会貢献を推進するYMCAフィランソロピー協会が主催してセミナーを開催します。テーマは「アフターコロナのコミュニケーション術～企業人に求められるつながり方とは～」。コロナ禍が収束しつつある今、断絶してしまった人と人をつなぐネットワークを再構築するには、どうすればよいのか。経営者として事業を展開する一方、人間心理とコミュニケーションに関する学問であるNLP (Neuro Linguistic Programming) のトレーナーとして活躍する佐藤拓司さんから、これからの時代に必要なコミュニケーション能力を学び、企業人としての社会貢献のあり方を探ります。

■ 5月17日(水) 15:00～16:30 講師 佐藤拓司さん(アルファルマホールディングス株式会社 代表取締役社長・全米NLP協会認定トレーナー) 場 肥後銀行本店 会議室(熊本市中央区練兵町1) 費 無料 定 30名

■ どなたでも

■ 5月15日(月)までにWebサイトから

お申込みください。



英会話と世界のことば 6回受講コース



新年度
×
挑戦

70年の歴史の中で培われた指導力を誇り、英語の他、中国語・韓国語・フランス語など、多彩な言語を学ぶことができる「YMCA英会話と世界のことば」。「1度だけの体験だと不安」「実際に通えるかどうか試してみたい」という皆さんを対象に、春のお試し6回受講コースがスタートします。



■ 10,000円 教材費なし 内 英会話・シニア英会話・TOEIC対策・中国語・韓国語・スペイン語・ドイツ語・フランス語から選んだクラスを6回受講できます。 ■ 4月末日までにWebサイトからお申し込みください。

■ YMCA本館 Tel 096-353-6391(音声ガイダンス1)



熊本YMCA学院 オープンキャンパス

専門教育、人間教育、キャリア教育を教育方針として学生たちを育成。毎年、就職率100%を誇る専門学校熊本YMCA学院の各学科の魅力にふれることができるオープンキャンパスがスタートします。

■ 4月22日(土)、5月13日(土)、27日(土)、6月17日(土)、24日(土)他

■ 無料 ■ Webサイトからお申込みください

■ 熊本YMCA学院
Tel 096-353-6393



専門学校
×
体験

学科	目指せる職業・資格など
一級・二級建築士をめざす 建築科	インテリアデザイナー・住宅設計・建築設計士・建築施工管理技士
東京YMCA国際ホテル専門学校連携 ホテル観光科	ホテル・観光・プライダルコーディネーター・レストランサービス技能士
日本医師会認定医療秘書養成校 医療秘書科	医療秘書・医師事務作業補助・医療事務
スポーツ指導現場との連携 健康スポーツ科	スポーツインストラクター・健康運動実践指導者・NSCA認定パーソナルトレーナー・介護予防運動指導士
指定保育士養成施設申請中 こども保育科	保育士・幼稚園教諭

■ 日時 ■ 会場 ■ 内容 ■ 参加費 ■ 定員 ■ 参加条件 ■ 持ち物 ■ 対象 ■ 主催 ■ 締切 ■ 申込 ■ 問合せ ■ その他

COM-PASSION II

おもいやりとやさしさ Vol.16

総主事 光永 尚生



「世界を見つめ地域に生きる」とは何かを考える1年に

現在の社会の状況を見る時、グローバルとローカルを統合した、グローカルという言葉が使われはじめて久しくなりました。私たちのYMCAでは、長く、「世界を見つめ、地域に生きる」THINK GLOBALLY, ACT LOCALLYを標榜してきました。毎年ご協力いただく年末募金では、地域の課題を見つめながら、世界の災害や戦争で避難してくる方たちへの支援活動を全

国のYMCA、世界のYMCAと連帯して進めてきました。また、地域センター祭や、地域奉仕活動で得た収益を用いて、紛争が続く地域にあるYMCAの働きを通じた支援活動を展開しています。各地域の運営委員会、熊本YMCA全体のリソース推進委員会、熊本YMCAリデザイン委員会などがテーマごとに知恵を絞り、YMCAの働きを活性化するために、会員や地域の皆さんとの協働を進めています。

特に、全国YMCAが推進する中期計画の2021年～2023年にかけては、新型コロナ感染拡大期にあたり、「離れていても繋がっている」をテーマとして、オンラインや新しい取り組みを通じて、社会に貢献できる働きを懸命に模索してきました。世界の120の国と地域、日本国内35のYMCAにある200あまりの施設では、いつも連帯しつつ、「共に生きる社会の実現」に寄与

する努力を続けています。今回のトルコ・シリア大地震災害の支援では、キリスト教関連の団体で活動を進めている、アクト・アライアンスの働きを通じた支援を決めて、全国のYMCAで、募金活動を継続してきました。このように、私たちのYMCAは、それぞれの地域課題に取り組みながら、実は、世界を見つめながら日常の活動を行っていくという特長を持っています。その特長を持ち続け、国内的にはNPO的な働きを行い、国際的にはNGO的な連帯した活動を継続していきます。「世界を見つめ、地域に生きる」働きこそ、古くて新しい、YMCAの有り様を示しているものではないでしょうか。

2023年度は、熊本YMCA創立75周年の年です。4月は、新しいスタートの時期となります。皆様の健康と平和が実現することを共に祈りたいものです。

R | E | P | O | R | T

[2月8日⇒2月25日]

社会貢献

子ども食堂の現状と課題を学ぶ 講演会を開催



2月8日(水)、YMCA本館でフィランソロピーセミナーを開催しました。企業人の社会貢献を推進するYMCAフィランソロピー協会が主催し、協会会員企業の社員をはじめ20名が参加。「子ども食堂の現状と課題から考える—子どもたちの貧困を助けるために企業人ができること—」をテーマに一般社団法人熊本県子ども食堂ネットワーク役員で自身も子ども食堂を運営する穴井智子さんが講演しました。

ひとり親として子どもを育てた経験から「ママたちにゆとりを」と決意した経緯やこれまでの活動内容と利用者の様子、そして子ども食堂の枠を超えた

居場所づくりの取り組みについて説明がなされ、「思いやりのある社会になるように」と願いが語られました。

参加者からは、「地域ぐるみで子どもを育てることが今の時代だからこそ見直されているのではないか」「今までは協会として何ができるのかイメージがわからなかったが、話を聞いてよかった。自分たちにできることを模索していきたい」などの感想が寄せられました。

ICR 辻健太郎



専門学校

将来の建築家たち 学びの成果を発表



2月22日(水)、YMCA学院建築科2年生の卒業制作発表会をYMCA本館で行いました。2年時に構造、インテリア、模型、都市設計の各ゼミに分かれて構想から計画、試作を経て完成まで1年をかけた大作の発表でした。階段の模型を作るだけで一晩を要し、らせんの回転方向を間違えてやり直す等、途方もない工程がそこにはありました。完成しても不本意な仕上がりの学生や、せつかくの大作も発表で作品の良さをうまくアピールできずに悔しがる学生、逆に自信がなかったのに絶賛されるなど、それぞれのドラマがありました。

また、卒業制作発表会の後に館内に全作品を展示して投票するコンテストを実施しました。若きクリエイターは日本や世界の未来を変えるかもしれません。技術はもちろん新しい発想やアイデアも問われます。それを担う彼らに、クリエイティブをリアルに発信して評価される場が提供されました。学生たちは人に見られること、人に評価されることを体感しました。今後は学内発表にとどまらず校外発表、校外展示も実施予定です。

熊本YMCA学院建築科 吉田美華



ピンクシャツ

いじめについて考えよう 学生ら対談



2007年2月、カナダから始まった「ピンクシャツデー」は、いじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す1日とされています。

2月22日(水)、熊本YMCA学院では、フリースクールWING SCHOOL校長の田上善浩さんを招き、いじめについて考える時間を持ちました。はじめに田上さんから子どもたちの「感性」「知性」「創性」を育み「幸せな未来を築く力」をつけることを理想とするWING SCHOOLの教育方針や、一人ひとりが自分らしく輝く新しい時代の在り方について語られまし

た。続いて子ども保育科、健康スポーツ科、日本語科の学生5名が対談。「世界平和はクラスから」という田上さんからのメッセージを受け、「今からチャレンジしたいことは何か」という問いが投げかけられると学生から「クラスメイトとコミュニケーションを深め、互いに高め合っていきたい」などの思いが語られました。YMCA学院では、「世界をみつめ、地域に生きる」若者を育てる場として、学生たちの周囲に関心を持ち、課題を発見する力を育てていきます。

熊本YMCA学院子ども保育科 伊藤真太郎



保育園

園児たちが初挑戦 阿蘇でえいご発表会



2月25日(土)、阿蘇の司ピラパークホテル&スパリゾートを会場に、YMCAの尾ヶ石・赤水・永草・黒川の4保育園園児が一堂に会し、えいご発表会を行いました。

各園の年中・年長クラスでは、毎週楽しく英語を学んでいます。日頃の学びの成果を発表し、保護者に子どもたちの成長を感じてもらおうと初めて企画。発表会に向けて英語での歌や踊りの練習をしてきました。最初は声が小さかった子どもたちも1カ月、2カ月と過ぎると自信をつけていく姿が見られ、クラスからは元気な声が聞こえていました。

発表会当日、多くの保護者が見守る中、元気よく発表した子どもたちは、大きな拍手を受けて大喜びでした。

子どもたちからは、「緊張したけれどみんなできて楽しかった」などの感想があり、保護者からは、「子どもの楽しそうな姿に感動しました」「コロナ禍で難しかった他の園との交流ができて良かったです」などの声がありました。これからも英語を通して、コミュニケーション能力をつけ、たくさんの人たちに守られながら大きく成長をしてほしいと思います。

尾ヶ石保育園 岡山富士男



YMCA阿蘇キャンプ70周年記念募金ご協力をお願い

YMCA阿蘇キャンプは、多くの皆様に支えられて70周年を迎えました。YMCA阿蘇キャンプは、九州で初めての組織的教育キャンプ場であり、1952年の開設以来、ここで多くの子どもたちやリーダーが育まれてきました。阿蘇の大自然に囲まれた原体験ができるにふさわしい施設への改修のため、阿蘇キャンプ70周年記念募金に取り組んでいます。皆様のご協力をお願いいたします。

第Ⅰ期 2022年8月1日▶2023年6月30日

第Ⅱ期 2023年7月1日▶2023年10月31日



募金の目標額 3,000万円

募金を用いて以下のことに取り組みます。

①阿蘇キャンプの施設改修

キャビン5棟やメインホールの補修、バリアフリー化、誰ひとり取り残さないユニバーサルな施設、安心安全にご利用いただける施設として生まれ変わります。

2,750万円

②70周年記念誌の作成

阿蘇キャンプ70周年の歴史を振り返り、貴重な写真とこれまで支えていただいた皆さんのメッセージを掲載。これからの阿蘇キャンプの夢と未来が詰まった1冊となります。

50万円

③70周年記念事業の実施

●記念礼拝・記念式典 ●70thバースデイ・デイキャンプ ●ファミリーキャンプ、被災児支援あそぼうキャンプ

200万円



熊本YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397 Webサイトからクレジットカードでの募金も可能です。

YMCA阿蘇70周年



タイ「若竹寮」 卒寮生が弁護士に

熊本YMCAはタイのチェンライYMCAと協力し、北部タイに暮らす山岳少数民族の子どもたちの支援に取り組んでいます。子どもたちは日本国内の里親の支援などを受けて、「若竹寮」で共同生活を送りながら、街の学校に通っています。

この春、若竹寮の卒寮生のフィンチャノン・ウィチエルクさんがタイの弁護士になりました。フィンチャノンさんは、中学2年生から高校3年生まで若竹寮で生活。将来弁護士になって自分と同じアカ族の人々を助けたいという夢に共感した立野泰博さん(当時日本福音ルーテル大江教会牧師・熊本YMCA常議員)が中心となり、若竹寮卒寮後も熊本ジェーンズワイズメンズクラブや大江教会などによる支援が続けられていました。フィンチャノンさんは若竹寮のあるチェンライに戻り、故郷の人たちのための働きをスタートします。



◀タイの里親運動
若竹寮について

Yahoo!募金からも
寄附が可能です



発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)
発行人／光永 尚生 編集人／大塚 永幸
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

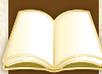
共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウェルネス活動 平和な世界

2023年度基本聖句

マタイによる福音書7章7節

求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。

わたしと聖句



日本キリスト教団荒尾教会
佐藤真史

ヨハネの手紙一 4章11節

愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。

Love and Action

“Love and Action.”これは被災者支援センター・エマオ(仙台)にコーディネートとして遣わされ、海外教会からの尊い献金を取り次ぐ中で出会った、合同メソジスト教会(UMC)のラオ紀子さんの言葉です。紀子さんは、東京の阿佐ヶ谷教会出身で、若い時に渡米し、キャリアとご家庭を築かれた方でした。3・11が起これる前に紀子さんは来日し、まずエマオとUMCを繋げました。何度も被災地へ足を運んで、一緒にボランティアワークをしつつ、並行してUMCと調整し、申請書や報告書に関してアドバイスをしてくださったの

です。2020年9月、久しぶりに紀子さんからメールが届きました。5月末に「Habitat for Humanity」のボランティア中に急に倒れ病院に運ばれ、いまは末期ガンと共にあると書かれていました。お祈りを送るとすぐに短い返信を受け取りましたが、数日後80歳で召天されました。Habitatとは貧困などで安心して暮らせる住居のない方たちのために、住環境を作っていくボランティア団体です。その精神は、まさにエマオやYMCAと繋がっています。ですから、紀子さんからのメールを読み、とっても彼女らしいと思いました。一人のキリスト者として、最後まで「Love and Action」を胸に刻まれ歩まれたのです。すべての人間の創り主である神さまからすれば、わたしたち一人ひとりにはかけがえのない一人ひとりです。この愛(Love)を受けているわたしたちが支え合う(Action)尊さを、紀子さんは証ししています。